

「この震災から学びたい」

そうやって、薬の問題、透析の問題を乗り切ってきました。これはわれわれラジオの使命かなと思います。

やっぱり、震災当初は本当に連絡なんかつかなかったですから。行政が来てくれたのは2週間くらいあとですね。障害のある人に聞いてみると、「早くて」2週間だったようです。

行政の方にはもっと早く弱者の人たちに声をかけてほしい。障害のある人は、避難所にいけないんですよ。トイレの問題などもありますし、最初にいった避難所なんか、みんな体育館座り、70歳の方でも80歳の方でも90歳でも、「体育館座り」をさせられていました。死んでしまいますよね。

障害のある人たちが逃げるための避難所なども今から確保しないとだめですよ。「〇〇に避難所をつくりました」って言っても、高齢者や車いすの人、目の見えない人には外からはわからないのですから。

人工肛門を付けている方などにも話を聞くと、食べず飲まずに過ごしていました。トイレに行けないから。外からわからないですよ。人工肛門を付けている人のことは。やはり障害のある人たち用に人工肛門などの処理もできる場所をつくっておくべきです。

福島や宮城・岩手から学ばないと。東日本大震災って過去のものになっていきますが、そうじゃないんですよ。いまでも苦しんでいる人がいっぱいいるし、これからも起き

る可能性があるわけですよ。

福島の今は

今でも福島市内では、20マイクロ30マイクロ、60マイクロレベルのところがあります。それはホットスポットといわれるところですよ。

綿菓子と同じで、放射線の濃い塊がそのまま風に流れてきて、雨が降ったらそのまま落ちてくるわけですから、そこは高いわけです。だから東京だってホットスポット

は当然あると思います。

原発が爆発した当時の判断として、福島県から離れるのは、いい選択肢の一つだったと思います。でもこれだけデータが出てきて、内部被ばくも全く問題がないのです。99・9%問題がないんです。

今でもホールボディカウンター（WBC）を入れ、6000人の幼稚園児と小学生の内部被ばくを測りました。その結果99・9%は問題ないということでした。

〈注〉ホールボディカウンター（WBC）：内部被ばく線量を調べるために、人間の体内に摂取され沈着した放射性物質の量を体外から測定する装置

その0・1%の6人のうち3人は兄弟で、おじいちゃんおばあちゃんの家庭菜園を食べていました。今でも福島県で、家庭菜園は食べてはいけません。食べるなら測った方がいい。

だから、通常流通しているものを食べていけば福島県で生活していてもまったく問題がないのです。いま懸命に除染をやっています。が、上から3センチぐらいの表土を剥ぎ、剥いだ放射線のついた土

